
やさしくないひと

モノクロ写真

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

やさしくないひと

【Nコード】

N1610U

【作者名】

モノクロ写真

【あらすじ】

やさしくないひとが、異世界で人生をやり直そうと頑張ってみては、へこたれるという御話です。

やさしくないひとは死んじやいました。

俺が覚えている中で最初の記憶は、まだ幼稚園にも入ってない頃の記憶で、朝、目覚めると大きなベットに独りでいて、誰もいないことが淋しくて、すぐに部屋を出て、家中誰かいないか探し回って、でも、誰もいなくて、泣きそうになりながら外に飛び出したら、太陽が眩しくて、目を細めたら光の向こうに誰かが見えて、安心したことを覚えてる。

幼稚園ぐらいのとき、40度の熱を出して寝込んだことがあった。その時も誰もいなくて、淋しくて、涙を流しながら、ずっと「助けて・・・」って呟いていた。

僕以外は皆、遊びに行つててすぐには帰ってきてくれなかったけど、帰ってきてくれた時、すごく安心したことを覚えてる。

小学生の頃、友達の家で遊んだ後、家に帰ったら誰もいなくて、いつも通りだなと思うぐらいには心は強くなっていた。

だけど、その日は、いつまで待っても、誰も帰ってこなくて、さすがに不安になり、だけど、いつものことだと思つようにした。

いつまでも帰ってこない家族に自分はどうとう捨てられたのかと思ひ、笑みがこぼれた。

その後、すぐに電話の音が鳴り、家族からの電話だと思つて、必死に受話器を取った。

電話の内容は簡潔に言えば、家族が事故に巻き込まれて死んだという事実だ。

他人ごとに聞こえた。

信じられなかった。

そして、現実を受け止めたその時からこの世界への興味をなくした。そんなこんな僕の人生もどうやらこのような走馬灯を見ているということは、今、目の前に迫っているトラックに轢かれて死ぬということなのだろう。

こんな時に最後に思い浮かぶのが、まさか・・・
脳内設定「ザ・僕かわいそうな子供時代だったんです」なんて、笑えんな。

現実、一番最初の記憶は、確かに独りでベットに寝ているところから始まるが、すぐに二度寝しようとしたら親にたたき起されたことだし、幼稚園時代、熱は出して独りでいたのは確かだが、熱を理由に甘いものを色々とねだって、買い物に行かせた為だ。また、小学生時代に親が全然帰ってこなかったのは本当だが、電話で、姉の受験結果を見に行ったら、渋滞に巻き込まれたという電話があり、それならそうともっと早くに電話しろやと泣きながら、怒ったのを覚えてる。

最後までこんなくだらないこと考えながら死ぬなんて、夢なら覚めてくれ、本当に。

これが、村雨晴、享年18の最後の思考であり、梅雨の季節のことでした。

やさしくないひとは赤ちゃんになりました。

どうやら、記憶を持ったまま転生を果たしてしまったらしい。

まあ、そんなことはどうでもいい。

本当に困った、僕が苦手な外人さんが母親とは、さつきから何か話しかけてきているが、まったくわからない。

僕はよくそこら辺にいる、英語が苦手で、外国になんて行かないから、日本語だけでいいのさと思う一般人だ。

過去には、雨の日に「スゲーどしゃぶりだな」と独りごとを言ったりそれを聞いていた中学校にいた外人の先生が「どしゃぶり？」ってWhat?ソレハナンデスカ?何、それっておいしいの?みたいな感じで聞かれて、マジダッシュで逃げたのは、日本人的に当たり前前の反応だったと思う。

まあ、その後、その先生に追いかけるという体験したのは僕以外あまり体験したことはないと思う。

この話には、更に続きがあり、その日は逃げ切れたものの、相手は先生であり、僕は生徒だということで、翌日、呆気なく捕まり、英語での説教をくらったのだ、たぶん。

結局、英語だったので何を言われたかわからなかったのだ。

何やら必死に俺に何かを伝えようとしていることは伝わったのだが、先生は最後には疲れきった顔になり、哀愁漂う感じに去っていったのは俺のせいなのだろうと少しへこんだ。

とりあえず、言いたいことは、せっかく記憶持って転生したのにあんまり活かそうにないなということだ。

だが、苦手意識はあるものの覚えなければ生きていけない。
それに、俺には転生して、大人？の思考が備わっているというアド
バンテージがある。

生きていくためにも、ゆっくり英語の勉強から始めるか。

そうと決意した日からは、これまで適当に流していた、母親の話を
真面目に聞き、その中から、色々と言語を覚えることにした。

真面目に聞いたおかげか、僕の名前やここの辺の地名について知る
ことができた。

僕の名前はアークというらしく、地名は、シュバルトというところ
らしい。

幾分曖昧だが、たぶん間違いはないだろう。

それにしても、世界には、そんな地名もあるんだな。

まあ、どうせ、マイナーな地名だろうから、わからなくて当たり前
か。

まあ、この調子で頑張っていくぞ。

「うー！！（おー！！）」

「あら、アークちゃんどうしたの？おもしろしちゃった？」

「うー！！（おー！！）」

アーク0歳、母の言葉がまったく理解できてないこの日は雲ひとつ
ない晴々とした午後のことでした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1610u/>

やさしくないひと

2011年10月8日18時42分発行